

器を楽しむ

逸翁の茶懐石

逸翁美術館 編

◎二〇一五年四月十一日〜六月七日に開催される、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

◎逸翁は茶懐石に、「和食」だけでなく、当時一般家庭にそれほど普及していなかった「洋食」をも取り入れ、西洋の器を積極的に用いた先駆者の一人であった。

◎逸翁愛用の懐石の器に合わせて、時代とともに変遷する逸翁の茶懐石を紹介。

◎逸翁との交流も深い料理人湯木貞一氏の収集品も収録。湯木氏は一流の数寄者でもあり、その収集品は湯木美術館に収蔵されている。

◎器物百十四点をカラー図版で掲載。

【目次】

【図版解説】

- 一章 初期の懐石
- 二章 器を考える
- 三章 「簡素な懐石」を目指して
- 四章 吉兆庵の数寄

【論説】

逸翁と食―茶懐石を中心に

竹田梨紗



上記、器はいずれも阪急文化財団蔵

▼A4判・一一二頁／定価：本体一、〇〇〇円（税別）
 【4月中旬刊行】 ISBN978-4-7842-1807-3

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	器を楽しむ―逸翁の茶懐石		本体1,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1807-3		
お名前			tcl				
			e-mail				
ご住所	〒						
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)						
			本書HPのQRコード		書店番線印		

月を愛でる うつろいと輝きの美

逸翁美術館編

2014年10月11日～11月24日に開催された、逸翁美術館特別展覧会の展示図録。

「詠う」「描く」「作る」「飾る」「奏でる」をテーマに、和歌・俳句や書画・絵巻、硯箱や櫛などの工芸品から楽器にいたるまで、それぞれの世界で表現された、「月」本来の持つ自然と調和する美しさを感じられる作品77点を紹介し、日本人が「月」に寄せた「想い」をさぐる。

▶A4判・112頁／本体1,000円(税別)
ISBN978-4-7842-1778-6



茶の湯交遊録 小林一三と松永安左エ門 逸翁と耳庵の名品コレクション

逸翁美術館・福岡市美術館編

電力事業再編を行い、戦後日本のインフラを築いた耳庵・松永安左エ門(1875-1891)、私鉄経営モデルの原型を独自に作り上げ、宝塚歌劇の創始者としても知られる逸翁・小林一三(1873-1957)。慶應義塾の福澤門下生として出会った二人は、終生の友であり、同時に、戦前から戦後にかけて活躍した大茶人であった。

忙しさを極めようとした耳庵とハイカラで軽やかな逸翁。対照的な二人の茶の湯の世界を、逸翁美術館と福岡市美術館の、それぞれのコレクションの名品でたどる。

2013～2014年に両館で行われた同名展の展覧会図録。
▶A4判・152頁／本体1,800円(税別) ISBN978-4-7842-1726-7

※復活!不味公大圓祭 小林一三が愛した大名茶人・松平不味

逸翁美術館編

2013年に開催された逸翁美術館特別展覧会の展示図録。小林一三(逸翁)生誕140年を記念し、逸翁が最も敬愛した大名茶人である、松平不味を採り上げる。不味は出雲松江藩の第7代目当主で、江戸時代を代表する大名茶人の1人。

本書では、昭和29年(1954)に阪急百貨店の古美術街をあげて開催された「不味公大圓祭」において当時出品された作品を中心に、不味遺愛の名品である「雲州蔵帳」収載の名品、及び逸翁が収集した不味作品をカラーで収録し、逸翁の茶道観に迫る。

▶A4判・84頁／本体1,000円(税別) ISBN978-4-7842-1685-7

※一茶会記をひもとく—逸翁と茶会

逸翁美術館編

2012年に開催された逸翁美術館特別展覧会の展示図録。逸翁(小林一三)は、三井銀行を退社し、箕面有馬電気鉄道(後の阪急電鉄)を起業した40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形貴一宗匠と出会い、本格的に茶人としての道を歩み始めることになる。茶の湯との出会いや、近代教習者としての歩みを、残された茶会記をひもときながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁／本体1,000円(税別)
ISBN978-4-7842-1626-0



※茶の湯文化と小林一三

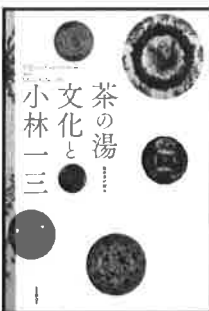
逸翁美術館編

2009年10月逸翁美術館の新装オープンを記念して開催された特別展の展覧会図録。

明治・大正・昭和の美術界で活躍した小林一三。またその一方「近代教習者」として確かな審美眼で収集された膨大なコレクションは、その遺志で逸翁美術館として受け継がれた。

本書では、小林一三(逸翁)の世界を5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。

▶A4判・148頁／本体1,905円(税別) ISBN978-4-7842-1485-3



※近世京焼の研究

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田頼川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にする。名工たちの陶業を産業としてとらえ、京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁／本体6,300円(税別) ISBN978-4-7842-1558-4

国宝油滴天目茶碗と国宝飛青磁花生 伝世の名品

大阪市立東洋陶磁美術館監修／三好和義撮影

大阪市立東洋陶磁美術館が所蔵する「唐物」の名品のなかから7点を選び、写真家三好和義氏の写真により、その魅力を詳細に細部に至るまでカラーの高精細大型図版で紹介。(初版2012年10月、編集発行：大仲社)

▶A4判変・64頁／本体1,905円(税別) ISBN978-4-9905-6315-8

※古田織部茶書 [全2巻]

森茂暁著

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成。一巻には、「宗甫公古職へ御尋書」及び「古田織部正殿問書」の2巻を収め、二巻には、「織部百ヶ条」「織部茶会記」「教奇道次第」「古織茶湯記」「古織伝」「茶之湯六宗伝記三」の6篇を収録。

(一)▶A5判・370頁／本体6,200円(税別) ISBN4-7842-0203-X
(二)▶A5判・442頁／本体8,200円(税別) ISBN4-7842-0204-8

※陶器全集 [全4巻]

加藤唐九郎他編

昭和6年に陶器研究・鑑賞界で望み得る最高の執筆者をむかえ、はじめて陶磁の世界に近代研究の光をあてた不滅の名著である。初版(宝雲舎刊)の再刊にあたっては、第一線で活躍中の研究者により一部改訂を加え、全巻に新たに索引を付した。

▶菊判・総2900頁／本体37,000円(税別) ISBN4-7842-0207-2

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか? 千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

【平成25年度茶道文化学術奨励賞受賞】
▶A5判・332頁／本体6,400円(税別) ISBN978-4-7842-1693-2

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会創立20周年記念出版。「中世」「近世」「近代」の3巻にわけて、時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成る。各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示する。最新の研究成果をふまえた茶の湯を巡る、まったく新しい概説書。

▶46判・平均330頁／各本体2,500円(税別)

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。